

# 市の考えを問う 一般質問

3月14日・15日・18日の3日間行われた一般質問の主な質問（Q）と答弁（A）の概要を掲載します。



一人ひとりの子どもに合った支援を

おおの 大野 洋子 議員



関係機関と連携し、教育的ニーズに応じた特別支援教育を推進

## Q 高齢者の「貧困と孤立」

おおの 太田 忠芳 議員



## A 地域包括支援センターを中心として支援を行いたい

**問** 厚生労働省の国民生活基礎調査による高齢者のいる世帯の状況の1986年と30年後の2016年の変化を見ると、「単独」が13・1割から27・1割に、「夫婦のみ」は同18・2割から31・1割に、「3世代世帯」は44・8割から11・0割になり、「単独」と「夫婦のみ」がほぼ倍増し、家族の典型と見られていた「3世代世帯」は4分の1に激減している。

今後この傾向は強まり、しかも単独世帯が比率を増すが、医療・介護で必要な対策をどうとるのか。

**答** ひとり暮らしの高齢者が増え、平均寿命等からすると、中でも女性が多くなると見込まれる。また、高齢になると、現役時代と比べて健康や生活習慣による影響が表れ、単独世帯の介護率は高くなると思われる。

**問** 市は、高齢者を支援する地域包括支援センターの機能強化を進めているが、近所の方々の見守りも重要であると考えます。今後も医療や介護を必要とする場合については、地域包括支援センターを中心に、関係機関や地域と連携を図り、支援を行っていききたい。

**◎その他の質問** 全世代型「住まい」の保障を

市は、高齢者を支援する地域包括支援センターの機能強化を進めているが、近所の方々の見守りも重要であると考えます。今後も医療や介護を必要とする場合については、地域包括支援センターを中心に、関係機関や地域と連携を図り、支援を行っていききたい。

**◎その他の質問** 全世代型「住まい」の保障を

**問** 通級指導教室で指導を受ける児童・生徒数について。

**答** 年々増加傾向にあり、5年前と比較し、小学生では1・8倍、中学生では3・2倍となっている。

**問** 他校で通級指導を受ける場合、保護者が送迎している。校内で受けられるようにならないのか。

**答** 各学校を巡回しての指導など、前向きに検討していきたい。

していく取組について。

**答** 特別支援教育に携わる教員を育てていくことは、喫緊の課題であると考えている。成果も出てきており、引き続き努力したい。

**問** 発達障害のある児童・生徒の乳幼児期から学校卒業までの一貫した教育支援計画の作成は。

**答** 医療や福祉等の関係機関との連携や保護者の参画も得ながら、きめ細やかで適切な指導や支援を行えるよう、個別的教育支援計画の作成に努める。

**問** 発達障害についての関心が高まっている。ペアレントトレーニング等の取組は。

**答** NPO団体等と協議をしながら、子ども・子育て支援事業計画の中に位置付け、31年度に検討していければと考えている。

**◎その他の質問** 高齢者家族の介護へのサポートを

